



箱舟で待つ鳥

チャペル・アワー案内

2019年9月21日

No.245

同志社大学
キリスト教文化センター

京田辺
0774-65-7370
今出川
075-251-3320

HP
<http://www.christian-center.jp/>

秋学期チャペル・アワー統一テーマ

「受けるよりは与える方が幸いである」

(使徒言行録20章35節より)

人間は誰でも、何か自分にプラスになるものを確保することで幸せを感じたいという欲求をもっています。その欲求を満たすために、他者にそれを求める傾向があるのではないのでしょうか。しかし、この言葉は逆のことを言っています。たとえば、愛されたいと思うことよりも、愛することを大切にすること。理解されたいと思うよりも、理解することを大切にすること。自分の幸せを求めるよりも、他者の幸せを求めること。そして、そこには無償の愛のみがある。イエス・キリストは身をもってその愛を示しました。そうしてこの世の人々に神の愛を伝えたのです。神のわざに参与する幸せがそこにはあります。

この言葉は、使徒パウロが宣教旅行の最後の頃に、エフェソの教会の人々に語ったものです。この時パウロは、「あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています」と告げているので、これは遺言としての説教の一部です。その最後に「主イエスご自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すように」と伝えているのです。

(キリスト教文化センター准教授 三木 メイ)

お知らせ

○Doshisha Spirit Week 2019 秋

10月28(月)～11月2日(土)

同志社大学の歴史や建学の精神、新島襄についての貴重なお話を伺い、同志社人としてのアイデンティティをより深める機会として、Doshisha Spirit Weekを毎年、春学期と秋学期に開催しています。

<今出川校地>

10月29日(火)9:00～

「同志社の建学の精神と教育理念—『愛人主義』の視点から」

キリスト教文化センター所長 横井 和彦

10月31日(木)13:10～

「イギリスにおける奴隷貿易・奴隷制廃止運動とキリスト教勢力」

経済学部教授 布留川 正博

<京田辺校地>

10月29日(火)13:10～

「震災復興の中で」

株式会社堀場製作所コーポレートオフィサー
管理本部副部長 山下 泰生

10月31日(木)14:55～

「One Purpose」

関西学院大学名誉教授 田淵 結

※この他、今出川校地ではキャンパスめぐり隊、京田辺校地では同志社大学応援団による演舞も予定しております。

※会場、教室等は掲示板などをご確認ください。

○「烏丸ウィーク」チャペル・アワー

「出張チャペル・アワー」を開催します。秋学期はいつものチャペル・アワーを志高館でランチタイムに行います。烏丸キャンパスを学びの拠点としている学生の皆さん、ぜひこの機会にご参加ください。

11月12日(火)

キリスト教文化センター教授 越川 弘英
「嫌韓と反日～友人をもつということ」

11月13日(水)

グローバル地域文化学部准教授 小野 文生
「もろい部分に立つ」

11月15日(金)

日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原 政輝
「いつかの道」

時間：12:35～13:00(3日間すべて)

会場：志高館118番教室

時間と場所にご注意ください。

(※今出川キャンパスでのチャペル・アワーは行いません。)

○チャペル・コンサート

「実りの秋 すべてのものに感謝を込めて」

演奏者：中原 由美子、川瀬 陽子、石 豊久、川崎 寿美

日時：11月2日(土)13:00～14:00

会場：同志社京田辺会堂言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂
申し込み不要、入場無料



○チャプレンとの面談

学生の人生における悩みや不安などの相談に応じています。相談をご希望の方は、キリスト教文化センター事務室にお申し込みください。

(教会のみならず、学校、病院などで働きを担う牧師をチャプレンと呼びます。)

今出川校地・京田辺校地

随時面談を受け付けます 越川 弘英、三木 メイ
今出川校地 金曜日 13:10～14:40 栗原 宏介
京田辺校地 金曜日 13:00～15:00 月下 星志

○メディテーション・アワー

オルガニストによるオルガン演奏を聴きながら心静かなひとときをお過ごしください。

今出川校地 9月24日(火)～12月19日(木)までの月～木 12:30～13:00

会場：同志社礼拝堂(11月はクラーク・チャペル)
京田辺校地 9月26日(木)～12月19日(木)までの月・木 12:30～13:00

会場：同志社京田辺会堂言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

○同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示(第10期展)

テーマ：「新島襄と同志社—建学の精神・新島の夢—」
会期：9月13日(金)～2020年3月中旬

9:00～17:00

※土・日・祝日、大学休校期間を除く。
新島襄や同志社の歴史と建学の精神に関する展示を行っており、半期ごとに展示資料を入れ替えています。今期は新島襄が同志社を設立した目的や、その意義についてあらためて振り返る内容となっています。自由にご覧になれますので、ぜひお越しください。



各行事の詳細は、HPまたはキリスト教文化センター掲示板のポスター等をご覧ください。

HP：<http://www.christian-center.jp/>

チャペル・アワー

秋学期：9月24日(火)～2020年1月24日(金) *授業開講日に実施します。

◎チャペル・アワーは、どなたでもご自由にご参加いただけるプログラムです。

◎当日の奨励題など詳細につきましては、ホームページや学内掲示板をご覧ください。

スケジュール(秋学期前半)

京田辺校地

月/日	奨励者
9/24	日本キリスト教団岡本教会牧師 栗原 宏介
10/1	日本キリスト教団千里聖愛教会牧師 川江 友二
10/8	日本キリスト教団桂教会牧師 熊谷 沙蘭
10/15	キリスト教文化センター准教授 三木 メイ
10/29	日本キリスト教団千里聖愛教会牧師 川江 友二
11/5	日本キリスト教団岡本教会牧師 栗原 宏介
11/12	日本キリスト教団桂教会牧師 熊谷 沙蘭

今出川校地

月/日	奨励者
9/24	同志社中学校・高等学校聖書科教諭 桜井 希
10/1	梅花中学校・高等学校宗教科教諭 井上 真歩
10/8	音楽礼拝(同志社教職員合唱団) 神学部生 徳田 恵美奈
10/15	学生企画 学生 企画
10/29	Doshisha Spirit Week 2019 秋 宮崎大学地域資源創成学部准教授 金岡 保之
11/5	音楽礼拝(同志社学生聖歌隊) 神学研究科生 三好 祐輝
11/12	*烏丸ウィーク キリスト教文化センター教授 越川 弘英

水曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎水曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
9/25	日本キリスト教団京都教会伝道師 大川 祈
10/2	生命医科学部長 野口 範子
10/9	日本聖公会川口基督教会牧師 柳 時京
10/16	日本キリスト教団奈良教会牧師 汐碓 直美
10/23	スポーツ健康科学部准教授 海老根 直之
10/30	Doshisha Spirit Week 2019 秋 宮崎大学地域資源創成学部准教授 金岡 保之
11/6	心理学部嘱託講師 池本 真知子
11/13	日本キリスト教団西宮教会副牧師 石田 求

水曜チャペル・アワー

クラーク・チャペル 毎水曜日10時45分～11時30分

月/日	奨励者
9/25	日本キリスト教団豊中教会牧師 山崎 道子
10/2	グローバル・コミュニケーション学部嘱託講師 加茂 佳彦
10/9	日本キリスト教団鳳教会牧師 三浦 遙
10/16	同志社女子中学校・高等学校社会科教諭 浮田 倫太郎
10/23	日本キリスト教団東灘教会牧師 南 豊
10/30	Doshisha Spirit Week 2019 秋 日本キリスト教団寝屋川教会牧師 村上 公彦
11/6	学校法人夙川学院院长 樋口 進
11/13	*烏丸ウィーク グローバル地域文化学部准教授 小野 文生

金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
9/27	日本キリスト教団京都聖公会牧師 内山 友也
10/4	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
10/11	日本キリスト教団上烏羽教会牧師 月下 星志
10/18	日本キリスト教団平安教会牧師 小笠原 純
10/25	日本キリスト教団豊中教会牧師 山崎 道子
11/1	日本キリスト教団京都聖公会牧師 内山 友也
11/8	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
11/15	日本キリスト教団上烏羽教会牧師 月下 星志

金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
9/27	日本キリスト教団同志社教会牧師 望月 修治
10/4	日本キリスト教団岡本教会牧師 栗原 宏介
10/11	日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原 政輝
10/18	神学部長 越後屋 朗
10/25	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
11/1	日本キリスト教団同志社教会牧師 望月 修治
11/8	日本キリスト教団岡本教会牧師 栗原 宏介
11/15	*烏丸ウィーク 日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原 政輝

エッセイ

『君等宜しく改革家となりて 此不潔なる天下を一掃し賜へ』

(同志社学生古賀鶴次郎宛 新島襄書簡)

百合野 正博

来年3月末で定年退職する私は、50年前には同志社大学商学部の新入生だった。全国の大学で学生運動の嵐が吹き荒れ、本学でも6月から全学無期限バリケードストライキに突入した。その後、半年以上にわたって授業は姿を消したが、私たちは別に何とも思わなかった。それは、当時の大学生にとって授業がそれほど重要ではなかったからである。授業がないのを幸いにアルバイトをしていた？否。私も友人もだれ一人としてアルバイトなんかしていなかった。

クラブの例会・麻雀・呑み会などで友人や先輩後輩たちとおしゃべりや議論に熱中し、一人の時間には本を読み、外国語の勉強をした。授業に出なくても教授の書いた本を読んで学説を理解しようとした。外国語は、専門書を原語で読み、海外の短波放送を理解するためのツールだった。これらで蓄積した知識をベースに、私たちは日本内外の社会・経済・政治について毎日のように熱く語り合ったのである。やり玉に挙げたのはたいへい「この社会は汚いことに溢れている」であり、「権力は悪」であった。

あれから半世紀たった今の日本社会、汚いことは社会から姿を消し、権力は悪でなくなったのだろうか。私はそうは思っていない。そのような報道や論評が目にとまらなくなってしまっているのである。映画「新聞記者」を観ると、私たちが思っている以上に日本の民主主義が危うい瀬戸際に置かれていることがわかる。舌鋒鋭く体制批判した大学教授や政治家や官僚が、痴漢や不倫や出会い系通いで信用を失墜させられるカラクリやネット上の世論形成の仕組みを暗示するシーンは、うすうす不審に思っていたものの、映像で見せられると背筋が寒くなった。

5年前のこの欄に、新島襄が勝海舟に「同志社の完成まで200年かかる」と答えたのは、当時の中央集権の官僚機構が強大なために、新島の理想とする国民本位の社会を構築するにはそれだけ長い時間が必要だと考えたからではないか、と書いた。そのような国民本位の社会を支えるのは良心の全身に充満した知的水準の高い国民一人ひとりに他ならないのである。今、同志社でキャンパスライフを送っている諸君に冒頭の新島襄の言葉を贈り、授業以外の時間を50年前の大学生のように使ってくれるよう期待したい。確実に毎日が面白くなるし、新島襄の200年が短縮できるかもしれないという希望が生まれるから。

(ゆりの・まさひろ Ⅱ 商学部教授)

※今出川校地の11/12、13、15のチャペル・アワーは12時35分、烏丸キャンパスで行います。時間と場所にご注意ください(詳細は裏面「烏丸ウィーク」チャペル・アワーをご覧ください)。